

間前に基肥として、「あさひ」を60kg/10a全面に施用後、畝立てをしてください。畝幅は1.2m、高さは最低30cmを基準としてください。「タマネギは堆肥で作る」ことが基本です。

○定植

- ・株間10cm、条間20cmの4条植えを基準とします。
- ・定植適期は、草丈25cm前後で、10月下旬から11月上旬です。ただし、この頃は気温、地温が低くなるため、定植時の植え傷みや根の乾燥はその後の生育を遅らせ、球の肥大が悪くなります。このため、苗は根の乾燥防止に留意してください。なお、自家育苗で、草丈が20cm未満の場合は、できるだけ草丈を大きくしたほうが活着がよくなるので、定植を11月中旬に遅らせてください。
- ・葉の緑色部まで深植えすると活着不良により枯死したり、生育不良の原因になります。茎下部の白色が見える程度に深さ2cmまでの浅植えにしてください。

○追肥

順調に生育している場合は、収穫までに2回の追肥で十分です。1回目は12月上～中旬に「そさい5号」を10～15g/m²、2回目は消雪後の3月上旬に同量施用してください。なお、翌春3月中旬頃の生育が悪い場合は4月上～中旬に「そさい5号」を10g/m²を施用してください。

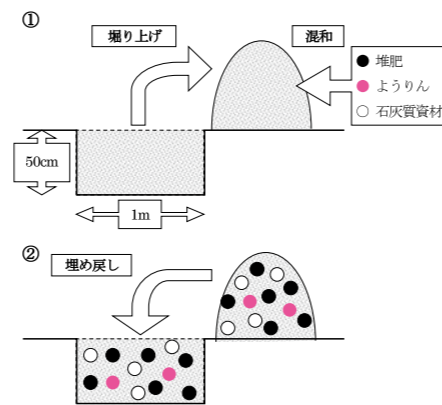
果樹

★温州ミカンの追肥

10月中旬に追肥（観光みかん園は開園直前）を施用してください。施用する肥料は「果樹追肥S226」、施用量は結実量の多少に関係なく60kg/10aとしてください。

★落葉果樹苗木の植穴準備

果樹類の植付け適期は、落葉果樹が11月、常緑の柑橘類やビワは3～4月ですが、植え穴の準備は1か月前に済ませてください。理由は投入する堆肥等の有機質資材と土を十分なじませ、根の活着を良くするには最低1か月間必要なためです。植穴は幅1m、深さは最低50cmとし、1穴当たり堆肥2～3kg、ようりん1kg、石灰質資材1～2kgを掘り上げた土と十分混和し、埋め戻しておきます。最近、果樹苗が手元に届いてからあわてて植え穴を掘り、定植するケースが目立ちますが、翌年の生育を良好にするために是非実施してください。



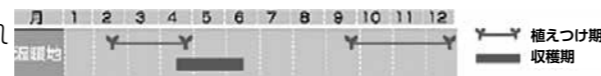
イチゴの露地栽培

▼圃場準備 イチゴは比較的涼しい気候を好む植物で、春や秋に盛んに生育します。水はけ、保水性のよい有機質に富んだ土が適しています。露地植えの場合、1m²当たり完熟堆肥2～3kg、基肥100gを施用します。土壌pHは5.5～6.5となるように調整してください。

▼親株の定植 植付け間隔は畝幅60cm、株間30～35cmの2条植えを標準とします。このときクラウン(根元のふくらんだところで茎に相当する)が土の表面に出るように浅植えにしてください。

▼管理のポイント

植付け後、たっぷり灌水し、乾燥に注意する。古くなった下葉や枯れ葉は病気や害虫の発生源となるので、株元からかきとってください。



水田のケイ酸資材の施用と秋の田起しをしましょう

ケイ酸が不足しています!

ケイ酸は、●葉や茎を硬くし、病気や倒伏に強くなる。
●葉が垂れにくくなるので、下葉まで光が当たるようになり、
収量や品質、食味にも影響を及ぼす 等の効果があります。

資材紹介

★元氣3兄弟 (60kg/10a)

- 苦土5
- ケイ酸23
- リン酸4
- 加里7
- +その他微量元素



★いね一番 (100kg/10a)

- 苦土10
- ケイ酸21
- 窒素2
- リン酸16



★ニューケイカル (100～200kg/10a)

- 苦土5
- ケイ酸22



10月は 県下秋の 田起し 月間です!!

●秋の田起しは、稲わらが腐熟しやすくなり、翌年のガスの発生を抑え、根を健全にします。
●また、土の中の雑草の種を掘り起し枯死させ、翌年の発生を減少させます。
秋起しは稲の収穫後気温が高いうちに行う方が効果が高くなります。
なるべく9月～10月までに行ってください。

水稲

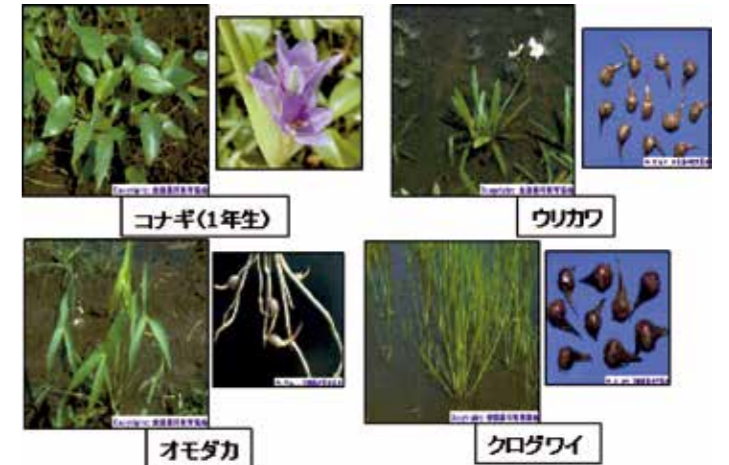
★難防除雑草の除草対策

最近、水田内でヒエとともに、写真に示した1年生のコナギや塊茎とよばれる小さなイモ状の根で繁殖するウリカワ、オモダカ、クログワイ等の難防除多年性雑草の発生が多くなってきています。

これらの雑草が多発生した水田では、水稲生育期の除草処理だけでは除草は困難です。来年のために秋のうちに除草対策を実施して下さい。

多年生雑草が多発生した水田では、水稲刈り取り直後から茎葉が再生してきます。発芽が確認されたら、「ラウンドアップマックスロード」または「草枯らしM I C」等の地下部移動性の除草剤を散布して下さい。

※ラウンドアップマックスロード、草枯らしM I Cは、10aあたり薬剤500mlを50～100ℓの水で希釈し、動力噴霧器で散布して下さい。



★10月中の秋の田起し

稲わらの腐熟を早めるため、10月中の気温が比較的高いうちに田起しを行ってください。また、このときに土づくりのため土壌改良資材を散布してください。

散布内容は ①いね一番 ②元氣3兄弟 ③輸入ようりん+ケイカル ①～③のうちいずれかを散布して下さい。

土壌改良資材の種類と使用基準

品名	10aあたり基準量	備考
いね一番 (粒) (秋耕起専用)	100kg (5袋)	稲わらを腐熟させる他、ケイ酸やリン酸、食味を上げる苦土を補給できます。
元氣3兄弟 (粒)	60kg (3袋)	ケイ酸・リン酸・カリ等の補給が同時にできます。
輸入ようりん (粒)	60kg (3袋)	酸性土壌を緩和し、リン酸・苦土・ケイ酸の補給になります。
ケイカル (粉)	200kg (10袋)	酸性土壌を緩和する他、ケイ酸を補給し、根・茎の働きを活発にします。

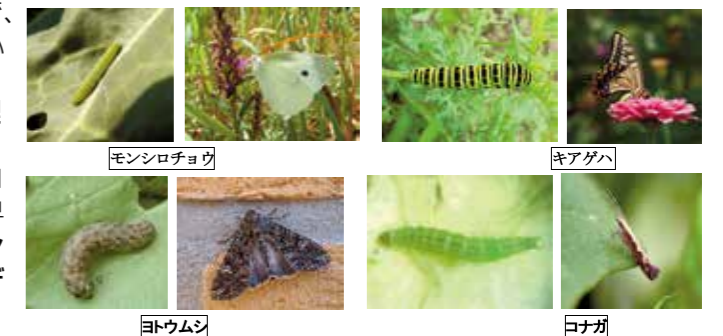
露地野菜

9月中旬以降、各種病害虫の発生が懸念されるので、秋冬野菜類の観察に努め、早期発見・早期防除を心掛けてください。

★初秋播きダイコン・キャベツ・ハクサイ等の管理

○害虫防除

モンシロチョウ、キアゲハの蝶類や各種の蛾やヨトウムシ、コナガ類の発生に注意し、早期発見、早期防除を徹底して下さい。特に今年は、ヨトウムシの多発生が予想されるので、発生がみられたらアデオン乳剤2,000倍液を散布して下さい。



★病害防除

①ダイコンは、軟腐病の発生が懸念されます。発生の有無に関係なく、今月上旬から中旬にかけて、スターナ水和剤1,000倍液またはZボルドー500倍液を交互に7～10日おきに最低2回散布し、予防防除を徹底してください。

②キャベツは、べと病の発生が多くなります。早期発見に努め、発病がみられたら、ダコニール1000の1,000倍液またはZボルドー500倍液を葉裏にかかるよう丁寧に散布してください。

③ハクサイは、ダイコン同様軟腐病の発生が多くなります。近年多発傾向にあり、ハクサイの病害の中で最も注意が必要な病気で、多発すると有効薬剤が少なく、全滅してしまうことがあります。病徴が疑われる場合は、一刻も早くZボルドー500倍液を散布してください。

★玉ネギの定植

○圃場準備

定植予定の20日前までに、圃場全面に堆肥2t/10a、石灰質資材100kg/10aを施用し、できるだけ深く耕耘してください。さらに、定植1週

